

# 水辺の楽校つまりっ子ひろばの岩石

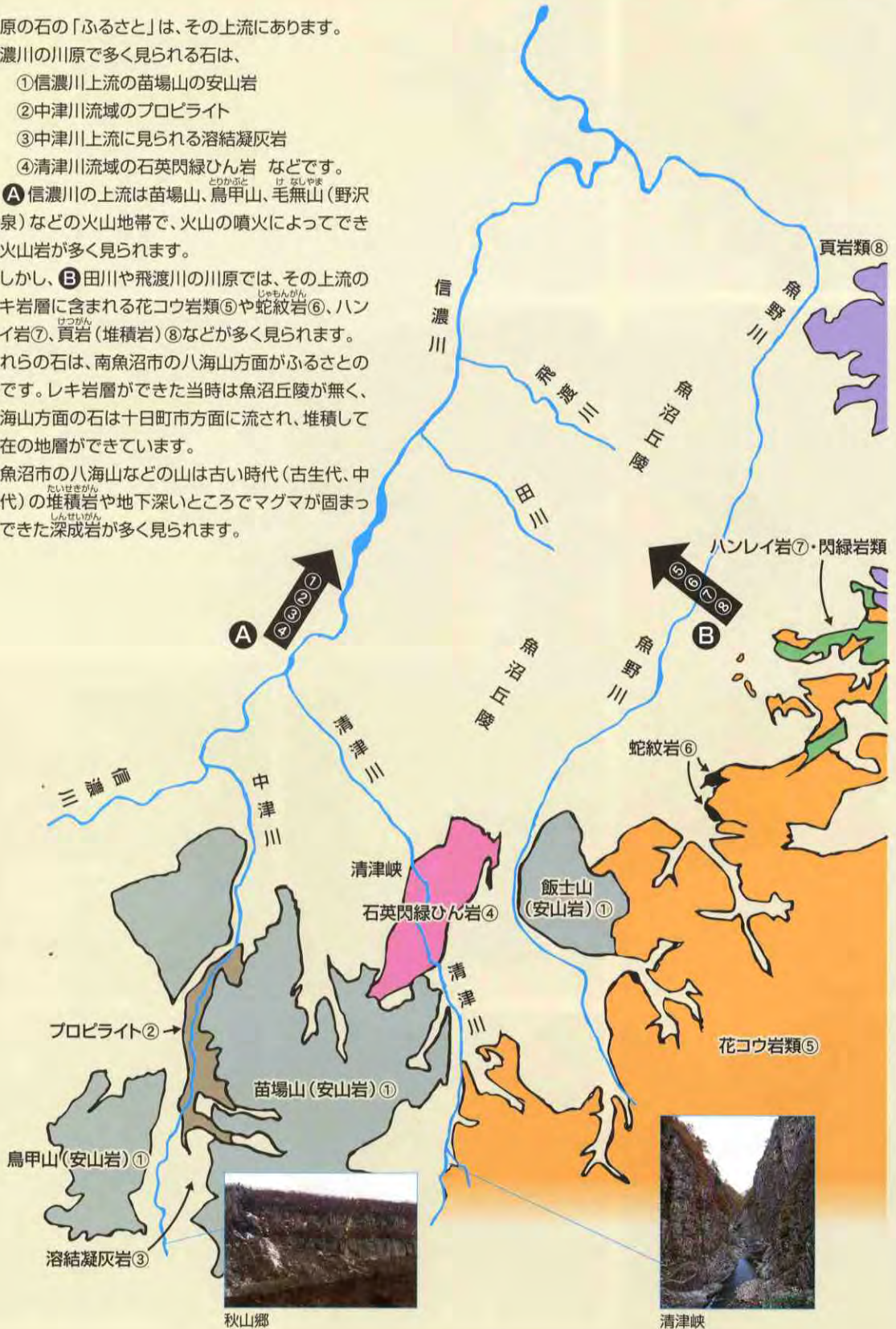
川原の石の「ふるさと」は、その上流にあります。  
 信濃川の川原で多く見られる石は、

- ①信濃川上流の苗場山の安山岩
- ②中津川流域のプロピライト
- ③中津川上流に見られる溶結凝灰岩
- ④清津川流域の石英閃緑ひん岩 などです。

**A** 信濃川の上流は苗場山、鳥甲山、毛無山（野沢温泉）などの火山地帯で、火山の噴火によってできた火山岩が多く見られます。

しかし、**B** 田川や飛渡川の川原では、その上流のレキ岩層に含まれる花コウ岩類⑤や蛇紋岩⑥、ハンレイ岩⑦、頁岩（堆積岩）⑧などが多く見られます。それらの石は、南魚沼市の八海山方面がふるさとの石です。レキ岩層ができた当時は魚沼丘陵が無く、八海山方面の石は十日町市方面に流され、堆積して現在の地層ができています。

南魚沼市の八海山などの山は古い時代（古生代、中生代）の堆積岩や地下深いところでマグマが固まってできた深成岩が多く見られます。



秋山郷



清津峡



# 信濃川 水辺の楽校つまりっ子ひろばの石



**安山岩** (andesite)  
 苗場山をつくっている岩石。信濃川でもっとも多く見られる。灰色で比較的粒が大きく、ガラスのような石英が目立つ。



**安山岩** (andesite)  
 中津川沿いの鳥甲山などをつくっている岩石。苗場山をつくっている安山岩より細かく、ち密。灰色で粒が細かい。



**安山岩** (andesite)  
 火山の噴火のときに安山岩質の溶岩が高熱で空気に触れて固まるとき赤色に酸化したものの。



**プロピライト**  
 安山岩が熱水で変質したため緑色をしている。苗場山の下、秋山郷中津川沿いなどで見ることが出来る。



**溶結凝灰岩 (Weldedtuff)**  
 火山岩などがその高熱のため溶結して固まった岩石。秋山郷(津南町)の奥で見ることが出来る。



**石英閃緑ひん岩**  
 清津峡(中里地区)の石をつくっている岩石。ガラスのような石英や白いチョウ石が多く、全体白っぽい岩石。マグマが地下で固まってできたため、石をつくる粒は大きい。

## 水辺の楽校つまりっ子ひろばの石



信濃川の流れ →

川原の石は左写真のように、川の流れるのはたらきで石の長径を下流に向けて並んでいます(インブリケーション)。また、信濃川は県境付近に西大滝ダムがあるため、こぶし大以上の大きさの石ではそれより上流の長野県のものが多い。十日町付近の信濃川ではあまり見られません。そのため、十日町付近では中津川や清津川流域を形づくっている岩石が多く見られます。